

役職員家族の集い

55周年の塩沢信組

各世代の代表者がメッセージ
家族の支え大切に

創立五十五周年を迎えた塩沢信用組合（小野澤一成理事長）は、十一月八日、南魚沼市のニューホテル越路で「役職員家族感謝の集い」を催し、役職員（56名）とその家族（59名）合わせて百十五名が参加した。

挨拶した小野澤理事長は「日々仕事に精を出せるのも家族の支えがあるからこそ。信組を支える核の部分、“コア・ファミリー”の皆様へ感謝を表すために開催した」と感謝を述べ、「リーマンショック以降厳しい状況が続くが、私たち信用組合を頼りにしている顧客のため、地域のために全職員一丸となって団結しこの局面を乗り切ろう」と職員に呼びかけた。



このあと、各年代を代表する職員が五十五周年を記念したメッセージを発表した。



三十代代表の本店の森下健係長は「私たちは信用組合に誇りを持っている。五年後、十年後には信用組合を中心に職員とその家族そして顧客がともに笑いあえる関係を築きたい」と夢の実現を誓った。

二十代を代表して本部・業務部の小林正典さんは、「地域の農業や環境のために『しおしん』ができることは沢山ある。全員が一致団結して地域のより良い未来を切り開こう」と決意を披瀝。



四十、五十代を代表して津南支店の片桐壮一支店長代理が、「地域の小規模事業者を元気づけるにはまず自分自身で彼らが提供するサービスを利用すること。地域と積極的に関わりファンとの信頼関係を深めよう」と提言した。

このあと各部店毎に職員とその家族で記念撮影を行った。第二部の「祝賀会」では取引先から購入した米や日本酒などの特産品、電化製品などを賞品にお楽しみ抽選会を行い、万歳三唱で閉会した。

塩沢信用組合は昭和二十八年三月に創業。南魚沼市を中心に五営業店を開設し、預金量三百十億円、貸出金百六十六億円、出資金四億円、組合員一万八百二十一名、常勤役員役職員五十四名（九月末）。

記念事業としては九月より介護や出産や教育など人間関係にまつわるフリーローン「絆」を取り扱っています。

NHK大河ドラマが当地なので

しおしん年金友の会二十周年記念

平成20年9月10日～9月11日に、塩沢信用組合・年金友の会は貸切列車で「天地人 直江兼続 米沢史跡巡りの旅」を行った。

2009年のNHK大河ドラマ「天地人」の主人公、直江兼続ゆかりの地で営業する塩沢信用組合（小野澤一成・理事長）と兼続が藩政に取り組んだ場所・山形県米沢市で営業する山形第一信用組合（近凱修・理事長）はドラマ放映を機に、地域の活性化に繋げようと互いの地域の情報交換を行った。



しおしん年金友の会二十周年記念旅行として「直江兼続の米沢史跡巡りの旅」を企画し、七十三名の参加者が山形県米沢市を訪れた。滞在先の旅館では山形第一信用組合の清水常勤理事、安部米沢北支店長が一行を出迎え、小野澤理事長ら塩沢信組の役職員、参加者の皆さんとで親睦を深めた。

また、宴会で行われたお楽しみ抽選会に山形第一信用組合が地元の工芸品「おたかぼっぼ（鷹を象った一刀彫）」

七本を提供。塩沢信組では地元特産のコシヒカリを贈り、自慢の名産品を交換し合った。



写真は本店の参加者の皆さんです。

後ろは行き帰りに乗った貸切列車「NODOKA」

JR上越線・新津駅にて

温泉と芝居で「じよんのび」昼食会

20周年特別企画

平成20年9月12日、塩沢信用組合の「年金友の会」は六日町温泉・ホテル木の芽坂で日帰り「じよんのび」昼食会を行う。

参加者224名で昼食会の第一部は、2階の大広間で観劇を楽しみ、第二部は、コンベンションホールで総会が行われ、今年の永年表彰（10年表彰128名、15年表彰72名、20年表彰95名、25年表彰7名、30年表彰5名）の各店代表者へ記念品の授与が行われた。



お芝居は、「義理と人情・笑いと涙」の物語での観劇を楽しむ

会員として、何年経ったかを節目節目でお祝いとして「記念品」を差し上げています。



コンベンションホールでの昼食会は、カラオケで歌いそして踊って、とってもいい気分であった。